

本の若い社員なのである。しかも、小川さんを除くと全部女性。

社員が優秀で全部やってくれるので助かりますと小川さんはおっしゃるが、サンプル作りから完成までは専務取締役の水口幸代さんが、資材や協力工場の手配から経営管理までのマネジメント全般はマネジャーの芹沢友子さんが担当する。

「縫製作業も、経験者ではなく初めての人間を採用し、ゼロからウチのやり方で教えることにしています。理由は、ていねいに作るというやり方を覚えて欲しいのです」(同)。このこだわりがお客様から信頼を得ている源でもある。

ていねいさ……の一例が、衿の表地、裏地の合わせ。一般に衿合わせ後は平らな衿になるが、同社は衿の右側、左側の合わせ縫いを2工程に分け、いせ込みながら衿の丸みを出している。

こうしたていねいなものづくりを追求する同社が、新しく導入したミンが「高速セゴドライヘッドインターロックミンMO-6716D。

ロックミンで油汚れなし パッカリング防止装置つき

これは、世界初の完全ドライヘッドを実現したロックミンMO-6100Dシリーズの先進技術をMO-6700シリーズに採用したものの。完全ドライヘッド化するのではなく、油汚れが問題になる機構のみドライ化して低コストを実現した優れたものである。

「ミンは新しいものが出て欲しくなってくるんですね。最初にMO-6100Dのドライヘッドが出たときに欲しいと思ったのですがなかなか導入できず、このセゴドライヘッドが出たので、パッカリ

ング防止装置がついたインターロックミンMO-6716Dをすぐに導入しました」と小川さん。

同社にとってロックミンで生産するものは、どちらかといえば非常に繊細な商品が多い。そうした商品では油汚れは落ちにくく、商品として致命傷になる可能性が大きい。「特にシルクやサテンといった商品では油汚れが発生すると処理が難しいので、この商品は大変にうれしい」(同)。

新しい設備があると そこから仕事が広がる

同社はもともとインターロックミンを使う仕事があって、必要に迫られて購入したというわけではない。もちろん、サンプル作りなどには有効に活用しているが、ねらいは将来の可能性である。「新しいミンを導入して、フルに活用しているわけではありません。稼働率は低いのですが、それゆえ、このミンをどう使ったら生きるかということが分かってくることで、新しい仕事も見えてくる」と小川さん。

身の丈も大きいことはしない!……とおっしゃりながら、しっかり前向きに捉えている姿に成長の秘訣が見えるようだ。

有限会社 プリズ ファッション ネットワーク
本社:静岡県田方郡函南町間宮
創業:平成2年
社長:代表取締役 小川正治
従業員数:30名
生産品:婦人服全般



工程に合わせて各種ミンを導入。技能に頼らずに品質を実現する方法でもある。

- ・眠り穴かがりミンLBH-1700、
- ・鳩目穴かがりMEB-3200S

入社3年目の出荷担当リーダー 村松友恵さん。



衿もパーツ段階で自然なふくらみが付けられている(左)。チェックの難しい柄をきれいに合わせるのは、根気の要る仕事だ。

手の込んだ難しい仕事を、きれいなラインで仕上げる……同社の仕事が高い評価を受ける秘訣だ。

